

図 2 見つかった掘立柱塼跡（南西から撮影）

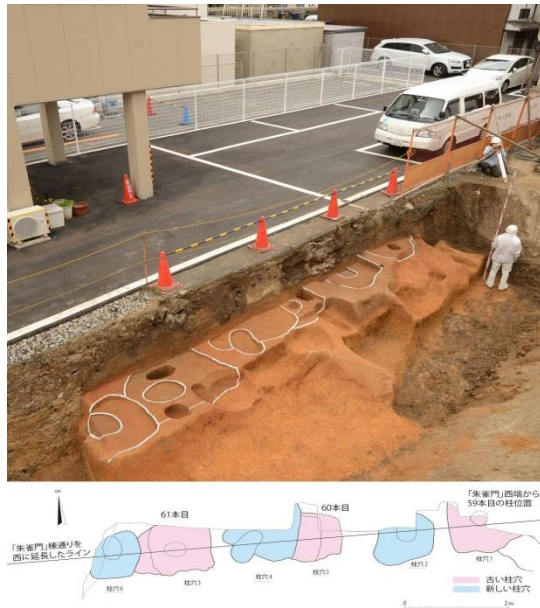


図 3 見つかった掘立柱塼跡（西から撮影）



図 4 柱穴 3・4 の断面写真（南から撮影）



【用語解説】

前期難波宮（ぜんきなにわのみや）：

孝徳天皇の「難波長柄豊碕宮（なにわのながらとよさきのみや）」と考えられている。蘇我氏を滅ぼした乙巳（いっし）の変（645 年）ののちに飛鳥から難波へ遷都が行われて造営された。その完成は白雉（はくち）3 年（652 年）と『日本書紀』に記されている。**国内最初の本格的な大陸風宮殿で、建物はすべて掘立柱式で瓦を用いない特徴をもつ。**朱鳥（しゅちょう）元年（686 年）に火災によって主要な部分が焼失した。奈良時代に、聖武天皇によって再建された